

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	中村菜々子		
NAME	Nakamura-Taira Nanako		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

実験室でのストレス負荷課題における臨床心理学的要因の導入

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

心理社会的要因は身体へのストレス反応の表出にも影響を与えられているが、臨床心理学では多くの知見がある、ストレス反応の個人差を生む要因（例えば、パーソナリティ）が、実験室での生理的ストレス反応の表出にどのような差を与えるのかについては、意外なことに十分な知見が得られていない現状である。したがって本研究課題では、共感性というパーソナリティを個人差要因として設定し、共感性の高低が、ストレス状況下での生理的ストレス反応の個人差に与える影響について、心理学実験を用いて明らかにすることを目的とした。この問いに基づき、本研究では、生理心理学の観点から明らかになっている生理的ストレス反応の実験において、臨床心理学的に重要な個人差要因を1つ取り上げ、その影響を検討することを目的とした。具体的には近年注目が高まっている「共感性」に注目した。実施にあたり新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、研究計画を一部変更する必要性が生じた。1年間の研究実施休止のち、当初の対面実験から、オンライン上での実験を中心とする実験に計画を修正してデータ収集を行った。これらの取り組みを基盤に科学研究費助成金へも新規課題を申請し、採択された。今後も研究を展開していく計画である。

（英文）

Although there is significant knowledge in clinical psychology, understanding how psychosocial factors, such as personality traits, affect stress responses in laboratory environments remains limited. This study aimed to examine the impact of empathy on individual variations in physiological stress responses. Under the COVID-19 situation, the research plan was adapted to include online experiments. Based on the outcomes of this project, the new KAKENHI funding was acquired.